

雑 感

塩 沢 丹 里

早いもので信州大学産科婦人科学講座の教授を拝命して2年近くが過ぎました。着任直後は慣れないことばかりで大変でありましたが、ここにきてようやくインストールも終了し、教室の今後などについても考える時間が持てるようになってきた今日この頃であります。

就任以来の最大の関心事でありましたのがやはり新入教室員の確保でありました。当初から非常にやきもきしましたが、幸いなことに今年度は比較的多くの入局者を迎えることができました。また、今年から信大では初期研修医に対する産婦人科特別コースが設置されましたが、この募集期間が短かったのにも関わらず2名が選択してくれました。みな実力も人柄も素晴らしい諸君ばかりであり、望外の好スタートを切ることができてほっとしております。長野県の産科医不足を解消するにはまだまだほど遠い状況ではありますが、ともかく彼らが末永く長野県で大いに活躍してもらえるように頑張りたいと思っております。

大学の内外では様々なことが目白押しであります。昨年の5月からは遂に新外来病棟がオープン致しました。今後は特に助産師外来の充実を図り、少しでも妊婦さんのニーズにお応えしたいと考えております。更に予算獲得を機に不妊症センターを設立する予定で、泌尿器科などともタイアップしてより高度な治療を目指します。また信大産婦人科は意地で分娩制限をしていないこともあって分娩数が鰻登りで、18年には374件であったのが20年には672件、今年は750件位までいきそうですが、医師、スタッフとも意気軒昂に対応しております。また耐震改修のためこの夏から産婦人科も旭総合棟に引っ越しております。引っ越した先が建物は綺麗で空調もよくおまけに眺めもすばらしいので、皆存外気に入っておりますが、新しい医局では研究室が改善されるので楽しみにしております。一方日本産婦人科学会が全国に先駆けて公益法

人を目指すのに伴い、県内組織の改変が必要になりました。今まで法人や NPO といった言葉に全く縁がありませんでしたが、思わぬところで社会勉強をしております。

産科医不足が叫ばれて久しいですが、これに対応するために諸関係の方を含めて関連病院を見直した結果、平成18年から8つの連携強化病院を決め、当面ここを中心に若手医師を派遣して安全性の確保と QOL の改善を図る方針です。ただ長野県の特徴から集約化が困難な場合もあるため、これ以上の削減は避けたいと考えております。昨年県立病院が分娩手当を設定していただいたことが端緒になり、奮闘する産婦人科医に対する理解がようやく広まってきた手応えを感じております。長野県の産婦人科医療をさらに向上させるため皆様の今後の変わらぬご協力をお願い申し上げます。

(信州大学医学部産科婦人科学講座教授)